

---

# 死への旅路

柚姫

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

死への旅路

### 【Zコード】

Z3623BA

### 【作者名】

柚姫

### 【あらすじ】

最近ホタルの住む町で殺人事件が勃発している。被害者はいつも体をバラバラにされて事件現場には五つ星が血で書かれていた。ホタルの親友も、その被害者となりホタルはその真相を見つけることにした。同じ学校に通うリックとハヤマとユキメとともにその事件の謎に足を踏み入れるが！？

## 登場人物（前書き）

ホラー要素があつたりするので、  
苦手な方はヒターン！  
シリアル要素もあるのでそれも・・・。

## 登場人物

### 登場人物

白花ホタル（16）

白い肌に白い髪。髪はくるぶしまである  
日本人離れした容姿を持つ少女。

性格は可愛らしい容姿に似合わず凶暴で薙刀を扱える危険人物。

ただそんな危ない感じに似合わず花が好きで特に白いバラが大好き。  
そのためか綺麗な白いバラの髪飾りを頭につけている。

リツカとは犬猿の仲

### 橘リツカ

隣のクラスの少女。

赤い髪に金色の目。

ホタル同様超絶美人だが気が強く、

認めた人間ではないと心を許すことは決して無い。

古めかしい言葉を使つたり

時々超偉そうになるが皆許す。

### 千里ハヤマ（16）

リツカと同じクラスで

綺麗な茶髪の男。

リツカとは仲がいいらしく

リツカが最も信頼している人間の一人  
目がよく、頭が良い

### 薬師丸ユキメ（16）

リツカと同じクラス。

黒い髪を肩まで伸ばしている。

落ち着きのある話しかけとやわらない物腰の彼女だが  
リックが絡むとすさまじい。

薬局の娘。

遠藤由美（16）

ホタルの親友。

元気で明るく、一緒にいる人間を和ませる少女。  
殺人事件の犠牲者となってしまった。

## 登場人物（後書き）

始まりました！

駄作なよかん満載だけど、

まあ、心を広くして下さい・・・。

そしてこれからも宜しくお願ひします！

## ハジマリノヒ

とある学校の教室

「ほつたるう！」

昼休みの終盤

窓辺で外を見ていたホタルに  
遠藤由美が話しかける。

「どつたの？元気ないよオ！」

いつも通りのハイテンション。

その反対にホタルのテンションは低い。

「別に…考え」と

「なになにー？恋の悩みー？それじゃあ相談に乗るぜー！」

キャピーン

そんな効果音が聞こえてきそうな変なポーズをする。  
アニメの見過ぎだと思ったホタル。

「そんなんじやないよ、ただ嫌な感じがするだけだし・・・。」

「体調不良？大丈夫？」

ホタルの顔を覗き込もうとする由美。

だが体調不良ではなく  
胸騒ぎといつよつな感じだわ。

「ん・・・熱はなさげだよねえ」

額に手を当ててそう呟く由美。

「そろそろ予鈴なりそうだし、  
戻るわ、じゃね！」

熱がないのを確認すると由美は明るい笑顔を残して席に戻つて行つた。

「はやいな。もどるのが

ハア・・・とたまつた息をすべて吐き出して  
憂鬱な気持ちを少し吐き出した。

その後すぐに予鈴がなり、授業が始まったが  
嫌な感じが治まることは無かつた。

## ワカレ//キ

「ホタル。大丈夫?」

五時限目が終わり、帰りのHRも終わった時に由美が自分の席に来た。

心配そうな顔を見ると自分の顔色が悪いのだろうか

「なんか、顔色悪いよ。やっぱ具合悪い?」

「イヤ・・・大丈夫。ちょっと風邪かもしれないけどそこまでは」

心配をかけたくなかつたので嘘をついて安心させようとする。  
案の定安心した顔になつた。

「んじゃ、悪く何ないうちにええろっかあ

由美が氣を使いホタルのバッくを持つた瞬間

「オイ、白花。ちょっとお前ここ」

担任の教師に呼ばれてしまつた。

「あーらり、ま、仕方ないよ。いつといでホタル後でめんどこよ。」

一理ある。あの教師はねとねとしつこから逃げたらめんどくさいうだ。

「あたし先帰るから気にしないで」

「ん・・・ありがと。明日なんか齧るわ。」

「えじゅる//スドのドーナツでー。」

「オッケー、じゃあした」

「うん、ばいばーい」

教室を出るときに満面の笑みで手を振る由美。  
これがわたしの見た、生きた由美の最後だなんて  
あの時はまだ、知らなかつた。

## カナシミノハジマリ

ー次の日ー

ホタルは朝学校に来ると由美が来ていないことに気がついた。  
時刻は7時45分

普段の由美ならばもう来ている筈だが・・・。

「ねえ、由美は？」

近くにいた友達に聞いてみたが  
今気がついたかのように周りをきょろきょろしてから答えた

「あれ・・・？来てないね。  
休みか遅刻じやない？」

「え？昨日元気だつたじゃんか  
由美のことだしさ、遅刻だよ～」

その友達の近くにいた子が笑いながら言った  
その子たちの周りにみんな集まつてきて  
アレコレ推測し始めたが  
ホタルは何故か以上に不安になつてきた

「どうしたんだろ・・・。」

自分の席に戻り、バックから水色の最新型ケータイを取り出し  
由美にメールした。

「由美・・・・・

その後時間が立ち8時10分に担任がはいつてきた。その眼は悲しみと疲労にみちていた。流石にその様子に由美が感いたさわざわと騒ぎ出した。

「由美、落ち着いて聞いてくれ。」

重いその口調に由美を閉じ、言葉の続きを待つ

「遠藤由美が亡くなつた。」

その衝撃の告白に由美を驚愕をかくせないでいた

「じつこつ・・・・・」とだよ・・・・・

ホタルが呟いた

その質問が聞こえた担任は事情を説明する。

「・・・・・最近、性質の悪い殺人事件が起つてているだろ・・・・・。遠藤は、昨日の放課後、その殺人魔に・・・・・。」

「嘘・・・・だろ・・・・・?」

ポロツ

瞬きした瞬間に一筋の涙がこぼれた

「あたしが・・・・・あたしが昨日、由美と帰つてれば、こんな事には・・・・・」

「イヤッ 白花！お前が悪いんじゃない！自分を責めるなッ！…」

ホタルの涙と言葉を皮切りに皆涙した。

「何で？何で由美が！？」

「何でんじゃないやつが死んじまうんだよ！？」

「由美イ・・・・・。」

「由美・・・・・・・・・・・・・・。」

ぼやけた視界の中に満面の笑みをして手を振っていた由美の姿が映り  
ホタルの心をさらに傷つけた。

## カナシミ→ハジマリ（後書き）

駄文ですね、やっぱ。

これからどうなるのかは検討中です

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3623ba/>

---

死への旅路

2012年1月10日16時45分発行